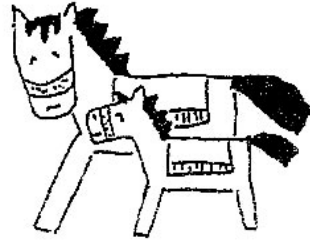


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと

令和元年 10月 NO.299



〒760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

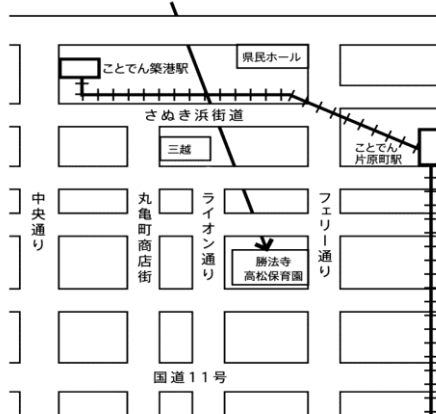
(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		10月の主な活動		～お気軽にどうぞ～
10月 5日 26日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って、一緒に遊みましょう。見学の方もどうぞ。	
10月 11日 25日	金	うたうたい「カラヴィンカ」 18:00～20:00	12月の発表会出演のため新しい曲を練習します。一緒にうたいましょ。	
10月 13日	日	創立73周年記念運動会 9:00～12:30	9時～10時は体育館で乳児から2歳児クラス、10時半～12時まででは3・4・5歳児が運動場でします。みんなおいで!	
10月 15日	火	香川みずゞさんの会 14:00～16:00	サスケ・アカデミー高松(就労支援事務所)の竹内栄作氏より事業内容や支援のあり方をお聞きします。	
10月 18日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「みんなで秋を楽しもう!」をテーマにわらべ唄や大型絵本もあります。	
10月 19日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	8月の紙ひも工芸の買い物カゴを仕上げます。	
10月 30日	水	健康育児相談 14:30～15:30	小児科園医師にゆっくり相談できます。(予約要)	

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。  
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00  
しつけや子育てについての悩み、保育園生活入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園 地域子育て支援センター



き神嵐裏日ふ  
き興ののぐ  
まのよ通れ  
したゆうりが  
たづくのを  
のを

金子みずゞ全集②  
「美しい町・下」より

いおおおあ  
そ母客父家そ  
がささへび  
がささんもつ  
しんま、はどか  
いは。はりれ  
や

日秋まあ  
ぐのだかい  
れま灯が提  
ががつり灯  
ののかぬ  
の

神輿(みこし)



☆今月の内容 — 「主体的に遊ばせ成長促す」  
「作業療法士からみる子どもの視点」

# 主体的に遊ばせ成長促す

## 運動会では団体競技 園児同士で相談も

「次は、10秒間、チャレンジするよ」。先生のかげ声を合図に、縄跳びを手にした4~5歳児たちが園庭に散らばる。10秒間、跳び続けられる園児の人数をクラス対抗で競う。東京都東村山市の認定こども園「秋津幼稚園」で、昨年12月に行われた縄跳び大会の風景だ。

認定こども園は幼稚園と保育所が一体となった施設で、秋津幼稚園には、共働き家庭や専業主婦家庭などの1歳以上の幼児約230人が通う。

同園が、保育方針を転換したのは約15年前。以前は、毎年秋の運動会で、複数の園児が組んで、扇の形などを披露する組み体操が、園の風物詩だった。

「繰り返し練習させ、きれいに決まると達成感はある。ただ、それで子どもの成長を感じている職員は少なかった」と、小島聖園長は振り返る。

他の施設の取り組みを参考に、運動会の組み体操や遊戯をやめ、ゲーム感覚で取り組める団体競技を中心にした。すると、園児の集中力が目に見えて上がったという。

個人が競う徒競走の代わりにリレー種目を増やすと、足の遅い子をどうカバーすればチームが勝てるか、園児同士で相談する姿も見られるようになった。

「以前は、普段の保育でも、『こっちを見て』『先生のお話を聞いて』などと、こちらが一方向的に呼びかけることが多かった。今は、子どもたちのやりたいことを引き出すために会話が増え、保育が楽しくなった」と、職員の鈴木真理恵さん(47)は話す。

保育園や幼稚園の教育・保育内容には、国が定めた基準がある。認可保育の場合、「保育所保育指針」で、基本的な考え方や発達段階ごとの目標が細かく示されている。

ただ、日々の活動は保育施設に任されており、施設ごとに違いがあるのが現



状だ。近年は、保護者の要望もあり、英語や体操、計算などを教える施設も増えている。

しかし、玉川大学の大豆生田啓友教授（乳幼児教育学）は「質の高い幼児教育とは、本来、子どもの主体的な遊びを学びへと発展させ、成長につなげていくものだ」と説明する。

厚生省は昨年5月、保育の質の確保・向上に関する検討会を発足させた。保育施設の運営者や自治体の担当者などの意見を聞きながら、基準に沿った保育をどう表現するか議論を続けている。

改革を進める施設では、課題も見えてきた。

京都府舞鶴市の「さくら保育園」は3年前から、行事の練習や全員一斉の制作活動を減らし、自由な遊びの時間を増やした。

室内には、園児が段ボールなどで作った家や卓球台が置かれ、いくつかのグループに分かれた園児が、手作りの衣装を着て踊りの練習をしたり、ペットボトルを使った工作に熱中したりしている。

以前は、子どもの注意を引くため、職員が大声を出すことも多かったが、今はほとんどなくなった。「家でテレビばかり見ていたのが、自分で工夫して遊ぶようになった」と、驚く保護者もいるという。

ただ、ここまでの道のりは平坦ではなかった。「遊ばせるだけではしつけないならない、小学校でじっとしてられない子になる、といった保護者の声もあり、何度も手紙を配り、方針を説明した」と森田達郎園長は話す。

保育士に求められる業務も増えた。常に新しい遊びをしているため、事前の準備も手間がかかるようになり、子どもを見守る人数も必要になった。森田園長は「よい保育の実践には、人材の確保が重要だと思う」と話す。

大豆生田教授は「質の高い保育は保育士のやりがいも高まり、長い目で見れば離職防止につながる。ICT（情報通信技術）の活用や働き方の工夫も進め、職員の負担を減らしていくことも必要だ」と指摘している。



私たちは子どもの発達や行動に接していて常に思うことは、保育士や幼稚園教諭と違う分野の専門家と共に保育や教育に関わることは有意義なことだと考えています。例えば、子どものことばがはっきりしないとか、何か不器用でぎこちないとか、未熟なところや苦手なところに大人が気付いて、言語療法士や作業療法士が常に関わっている環境は非常に大事だと考えています。乳幼児のいるところにそういう専門職の方も入って子どもの発育のサポートをしていけたら子どもたちはどんなに楽しく自信を持って過ごせることだろうと思います。作業療法士さんからのレポートを見つけたので、それをご紹介します。(堀 侃子)

## 作業療法士からみる子どもの視点

県学童保育研究大会より

「作業療法士からみる子どもの視点」がテーマの分科会ではこども相談支援センター「ゆいまわる」代表の仲間知穂さんが講師を務めた。学童クラブの支援員や保護者、関係者など98人が参加し、子どもの行動に関する疑問や悩みを解決するヒントを共有した。

仲間さんは「授業中にノートをとらなかつたり、友だちに暴力をふるってしまったりと問題行動をとる子どもがおり、その原因には発達障害がいや家庭環境などが考えられる」と説明した。

学校や家庭などチームで子どもの問題行動と向き合うとき、それぞれがすべきことを押し付けがちになるという。その上で「目標を明確にし、保護者や先生、友だちなどそれぞれができることをする協働関係が望ましい」と強調した。

また「遊びが子どもの体と心を育てる」と述べ、木登りで重力を体感したり、アスレチックをよじ登るなど筋肉の使われ方を感じたりすると体の動きがスムーズになるという。「学習やコミュニケーション能力の基礎ができる。学童でいろんな遊びを経験させてほしい」と提案した。

浦添市から参加した保育士の比嘉由美子さん(45)は「遊びがさまざまな感覚につながっているのを知った。遊びによっては“危ないよ”と言いがちだが、環境を整えたら思いっきり遊ばせてあげたい」と話した。

